

## 資料①「自立活動の指導目標、具体的な指導内容等の設定例」

### 1 児童生徒の指導目標や具体的な指導内容の設定の流れ

自立活動の指導目標や具体的な指導内容を設定する際は、特別支援学校学習指導要領解説自立活動編の10ページ及び12ページに例示してある方法を参考にして設定します。下記の表は設定しやすいように指導目標を長期目標と短期目標に分けて表記し、指導場面の欄を追記してあります。

自立活動の指導目標、具体的な指導内容の設定シート

実 態 把 握	障がいの状態、発達や経験の程度、興味・関心、生活や学習環境などについて情報収集					
	↓					
	健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
↓						
	長期目標					
	短期目標					
↓						
選 定 さ れ た 項 目	健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
具 体 的 な 指 導 内 容						
指 導 場 面						

それでは、具体的な児童の実態を用いながら自立活動の指導目標や具体的な指導内容等を設定する際のポイントを記述していきます。

## 2 実態把握

実態把握については、個別の指導計画の様式を用いて整理する方法もあります。

個別の指導計画		
小学部2年〇組（児童氏名）A児 （学級担任）〇〇 〇〇 （副担任）〇〇 〇〇		
1 児童・生徒の実態		
健康 生活 面	内科的疾患・てんかん発作・服薬・アレルギー・身体面・安全面の理解	
	障がい名	療育手帳（有）判定 A
日常生活面	自閉症	判定日 平成〇〇年〇月〇日
	判定日 平成 年 月 日	
学習面	<ul style="list-style-type: none"> <li>・てんかん（2週間に1回通院し、服薬の量の調整）</li> <li>・ストレスが溜まると興奮しやすくなり、発作がおこりやすい。</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・衣服は前後を間違えることがあるが一人で着替えられる。</li> <li>・靴を履く際に左右を間違えることがある。</li> <li>・排尿は一人で用を足すことができる。排便の拭き取りは支援が必要である。</li> <li>・食事については、箸やスプーンを上手に使うことができる。</li> <li>・歯磨きは苦手でもブクブクうがいができる。</li> <li>・発作があって日中睡眠をとっても、夜はぐっすりと眠れる。</li> <li>・兄と好きなテレビを見たり、ゲームをしたりして過ごしている。</li> </ul>	
その他	言語理解・指示理解・読み書きの程度・集団への参加・作業能力など	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の思いを言葉で表現することができる。</li> <li>・簡単な指示を理解して行動することができる。</li> <li>・自分の名前を見分けることはできるが、書くことは難しい。</li> <li>・数字は数唱、集合数とも3まで理解している。</li> <li>・絵本が好きで、動物や絵本のキャラクターの名前を指さしながら言うことができる。</li> <li>・校外学習ではクラスの教師や友達と手をつないで歩いたり、目的地や目的を理解して参加したりすることができる。</li> <li>・集会活動の際にクラスの教師と一緒に座って話を聞いたり、ゲームに参加したりすることができる。しかし、傍に教師がいないと不安になり、離席することがある。</li> <li>・手指の力が弱く、作品作りでビーズ通しや貼り絵など細かい作業が苦手である。</li> <li>・興味・関心が移りやすい。</li> </ul>	
その他	情緒面・行動上の特徴・こだわりなど・性に関すること	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初対面の友達や教師に対して攻撃的である。</li> <li>・登校時に機嫌が悪いが、日中は安定している。</li> <li>・好きな玩具を介して友達と遊ぶことができるが、順番を待つことが苦手である。</li> <li>・自分の要求が通らなると座り込んだり、つまんだり、ひっかいたりする。</li> <li>・自分の要求を簡単な言葉で伝えることができる。</li> <li>・性への芽生えがある。</li> <li>・大きな音や泣き声が苦手である。</li> <li>・太田ステージ評価（L D T-R）ステージⅡ</li> </ul>	
性格		趣味・特技
<ul style="list-style-type: none"> <li>・明るい</li> <li>・ひょうきん</li> <li>・人に依存しやすい傾向がある</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・絵本を読む</li> <li>・うたを歌う</li> <li>・黒ひげ危機一髪をする</li> <li>・動物パズル</li> <li>・ダンス</li> <li>・固定遊具遊び</li> </ul>
2 保護者の願い		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・身の回りのことが自分でできるようになってほしい。</li> <li>・機嫌が悪くなるとつまむことを改善したい。</li> </ul>		高等部進学希望 （ <input checked="" type="checkbox"/> ） ・ 無 （ <input type="checkbox"/> ） 卒業後の進路

### 3 実態把握の整理のポイント（六区分への整理）

学習上又は生活上の困難の視点やその背景にある要因を考えて、実態を六区分に整理することが大切です。その際、好きなことや得意なことについても整理すると指導の手立てを考えやすいです。

実態把握	<p>【学習上の困難】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・手指の力が弱く、細かい作業や書くことが苦手である。</li> <li>・クラスの教師が傍にいないと不安になる。</li> <li>・興味・関心が移りやすい。</li> <li>・順番を待つのが苦手である。</li> </ul> <p>【生活上の困難】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ストレスが溜まると興奮しやすくなり、発作がおこりやすい。</li> <li>・ズボンの前後の間違いや靴を左右逆に履く。</li> <li>・排便後の後始末の仕方に支援を要する。</li> <li>・初対面の友達や教師に対して攻撃的である。</li> <li>・自分の要求が通らないと座り込んだり、つまんだり、ひっかいたりする。</li> <li>・登校時に機嫌が悪い。</li> <li>・歯磨きが苦手である。</li> <li>・大きな音や泣き声が苦手である。</li> </ul>		<p>【背景にある要因】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・手指を使った遊びの経験不足</li> <li>・目と手の協応力の弱さ</li> <li>・認知面の弱さ</li> <li>・集団活動のきまりの理解</li> <li>・楽しい集団活動の経験の少なさ</li> <li>・人に対する信頼感の少なさ</li> <li>・語彙の少なさ</li> <li>・言語表出の弱さ</li> <li>・自分の要求が通らないことへのストレス</li> <li>・感覚の過敏さ</li> </ul>														
	↓	<table border="1"> <thead> <tr> <th>健康の保持</th> <th>心理的な安定</th> <th>人間関係の形成</th> <th>環境の把握</th> <th>身体の動き</th> <th>コミュニケーション</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ストレスが溜まると興奮しやすくなり、発作がおこりやすい。</li> <li>・排便後の後始末の仕方に支援を要する。</li> </ul> </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・登校時に機嫌が悪いが、日中は安定している。</li> <li>・絵本を読む、うたを歌うなど自分の好きな活動の時は精神的に安定している。</li> </ul> </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・クラスの教師が傍にいないと不安になる。</li> <li>・順番を待つことが苦手である。</li> <li>・初対面の友達や教師に対して攻撃的である。</li> </ul> </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・関心が移りやすい。</li> <li>・ズボンの前後の間違いや靴を左右逆に履く。</li> <li>・大きな音や泣き声が苦手である。</li> </ul> </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・手指の力が弱く、細かい作業や書くことが苦手である。</li> <li>・固定遊具で遊ぶことは好きである。</li> </ul> </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の要求が通らないと座り込んだり、つまんだり、ひっかいたりする。</li> <li>・好きな玩具を介して友達と遊ぶことができる。</li> </ul> </td> </tr> </tbody> </table>					健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ストレスが溜まると興奮しやすくなり、発作がおこりやすい。</li> <li>・排便後の後始末の仕方に支援を要する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・登校時に機嫌が悪いが、日中は安定している。</li> <li>・絵本を読む、うたを歌うなど自分の好きな活動の時は精神的に安定している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クラスの教師が傍にいないと不安になる。</li> <li>・順番を待つことが苦手である。</li> <li>・初対面の友達や教師に対して攻撃的である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関心が移りやすい。</li> <li>・ズボンの前後の間違いや靴を左右逆に履く。</li> <li>・大きな音や泣き声が苦手である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手指の力が弱く、細かい作業や書くことが苦手である。</li> <li>・固定遊具で遊ぶことは好きである。</li> </ul>
健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション												
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ストレスが溜まると興奮しやすくなり、発作がおこりやすい。</li> <li>・排便後の後始末の仕方に支援を要する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・登校時に機嫌が悪いが、日中は安定している。</li> <li>・絵本を読む、うたを歌うなど自分の好きな活動の時は精神的に安定している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クラスの教師が傍にいないと不安になる。</li> <li>・順番を待つことが苦手である。</li> <li>・初対面の友達や教師に対して攻撃的である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関心が移りやすい。</li> <li>・ズボンの前後の間違いや靴を左右逆に履く。</li> <li>・大きな音や泣き声が苦手である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手指の力が弱く、細かい作業や書くことが苦手である。</li> <li>・固定遊具で遊ぶことは好きである。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の要求が通らないと座り込んだり、つまんだり、ひっかいたりする。</li> <li>・好きな玩具を介して友達と遊ぶことができる。</li> </ul>												

### 4 指導目標の設定

実態把握に基づき、長期的及び短期的な観点から指導の目標を設定し、それらを達成するために必要な指導内容を段階的に取り上げることが大切です。保護者の願いを考慮して、長期目標は、一年間の指導で達成可能か、短期目標は指導の優先順位が高いか等の視点から設定します。

- ・登校時に機嫌が悪いが、日中は安定している。
- ・自分の要求が通らないと座り込んだり、つまんだり、ひっかいたりする。
- ・ストレスが溜まると興奮しやすくなり、発作がおこりやすい。
- ・大きな音や泣き声が苦手である。
- ・好きな玩具や固定遊具で遊ぶ時には楽しさを言葉で表現できる。
- ・機嫌が悪くなるとつまむことを改善したい。（保護者の願い）

長期目標	①嫌な時、自分の要求が通らなかった時に自分の意思を言葉で周囲の教師に伝え、怒りを静めて気持ちを切り替えることができる。
------	---



短期目標	①嫌な時、自分の要求が通らなかった時に自分の意思を言葉で表現し、特定の教師に支援を求めることができる。
------	---

- ・クラスの教師が傍にいないと不安になる。
- ・初対面の友達や教師に対して攻撃的である。
- ・順番を待つことが苦手である。
- ・絵本を読む、うたを歌うなど自分の好きな活動の時は精神的に安定している。
- ・固定遊具で遊ぶことは好きである。
- ・好きな玩具を介して友達と遊ぶことができる。

長期目標	②安心して一緒に過ごせる友達や教師の幅を広げ、きまりを守って積極的に活動することができる。
------	---



短期目標	②学級や学年での集団活動の場面において、クラスの友達や教師と一緒に決まりを守って積極的に活動することができる。
------	---

## 5 選定された項目

具体的な指導内容を考えるときに参考になる視点が自立活動の内容の六区分2項目です。児童の生活や学習における困難を軽くするために必要なものを選びます。また、背景要因となっていることには、どの項目が関係しているか多面的に捉えて選定します。

長期目標	①嫌な時、自分の要求が通らなかった時に自分の意思を言葉で周囲の教師に伝え、怒りを静めて気持ちを切り替えることができる。 ②安心して一緒に過ごせる友達や教師の幅を広げ、きまりを守って積極的に活動することができる。
------	--



短期目標	①嫌な時、自分の要求が通らなかった時に自分の意思を言葉で表現し、特定の教師に支援を求めることができる。 ②学級や学年での集団活動の場面において、クラスの友達や教師と一緒に決まりを守って積極的に活動することができる。
------	--



	健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
選定された項目	1 病気の状態の理解と生活管理に関すること	1 情緒の安定に関すること 2 状況の理解と変化への対応に関すること	1 他者とのかわりの基礎に関すること 2 他者の意図や感情の理解に関すること 自己の理解と行動の調整に関すること 集団への参加の基礎に関すること	2 感覚や認知の特性に関すること 認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関すること	1 姿勢と運動・動作の基本的技能に関すること 作業に必要な動作と円滑な遂行に関すること	1 コミュニケーションの基礎的能力に関すること 2 言語の表出と受容に関すること 言語の形成と活用に関すること 状況に応じたコミュニケーションに関すること

## 6 具体的な指導内容の設定

具体的な指導内容の設定に当たっては、自立活動の内容の中から必要な項目を選定し、いくつかの選定された項目を相互に関連付けて、指導内容を設定していきます。設定する際には、4つの配慮事項があり、その視点を踏まえた上で設定する必要があります。

## 7 指導場面と指導内容の考え方

自立活動の指導は、学校の教育活動全体を通じて行うことが基本になります。しかし、具体的な指導内容をどの場面でどのような方法で指導することが可能かを考えておくことが大切です。

具体的な指導内容を考える際に、「認知発達治療の実践マニュアルー自閉症の別発達課題の生活チェックリスト」（資料①ー6ページ）等で実態を把握しておくこと、身に付いていること、指導が必要なことを整理でき、発達の段階に応じた指導を行う目安になります。また、太田ステージ評価（LDT-R）のステージ別に発達課題が記載されている（資料①ー7ページ）ので、指導のポイントや指導の内容、教材・教具等を参考にすることができます。

	健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
選定された項目	1 病気の状態の理解と生活管理に関すること	1 情緒の安定に関すること 2 状況の理解と変化への対応に関すること	1 他者とのかかわりの基礎に関すること 2 他者の意図や感情の理解に関すること 自己の理解と行動の調整に関すること 集団への参加の基礎に関すること	2 感覚や認知の特性に関すること 認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関すること	1 姿勢と運動・動作の基本的技能に関すること 作業に必要な動作と円滑な遂行に関すること	1 コミュニケーションの基礎的能力に関すること 2 言語の表出と受容に関すること 言語の形成と活用に関すること 状況に応じたコミュニケーションに関すること

具体的な指導内容	①休み時間や昼休みは好きな遊びをして、ストレスを発散させる。 （目標①） ②教室内に落ち着ける場所を設け、興奮した時に一人で落ちけるようにする。（目標①） ③好きな活動やできる活動を増やし、自己肯定感を高めさせる。 （目標①）	①感情を表した絵カードを理解し選んで、今の気持ちを伝える。 （目標①） ②教師に助けを求める方法を身に付ける。 （目標①） ③怒りを抑えるためのアイテムを増やす。 （目標①） ④スケジュールを活用し、好きな活動を目標に苦手な活動にも意欲的に取り組めるようにする。（目標①、②）	①登校時に挨拶をする経験を積み、様々な人とのかかわりに慣れる。 （目標②） ②クラスの友達や教師とのふれあい遊びをきまりを守って楽しむ。 （目標②） ③自分や友達が好きな活動を一緒に体験し、楽しさを共有する （目標②）	生活スキルチェックリスト等の結果から、日常のコミュニケーション（あいさつ）ができていないことを考慮して、人とのかかわりを増やす目的とあわせて指導内容に加えました。
指導場面	①休み時間や昼休み ②学校生活全般 ③自立活動の時間 学校生活全般	①②自立活動の時間 学校生活全般 ③学校生活全般 ④自立活動の時間 学校生活全般	①登校時 ②③生活単元学習 学校生活全般	

## 生活スキルチェックリスト（コミュニケーション）

### <要求手段>

		4月	7月	2月
1	人に向けての要求がまったくない	○		
2	泣いたり地団駄を踏んだりする	○		
3	人の体を押ししたり服を引っ張ったりする	○		
4	人の腕や手首を引っ張る	○		
5	関係する物を持って来る	○		
6	手さしをする	○		
7	指さしをする	○		
8	身振りをする（ちょうだいの動作など）	○		
9	いくつかの動作を組み合わせる	△		
10	1語文（名称のみ）を使用	○		
11	2語文（～ちょうだいなど）を使用	△		
12	簡単な文章を使用	×		

### <現在の主たる要求手段>

1	クレーン	×		
2	指さし	○		
	身振り	○		
	言葉	○		

### <拒否>

1	なし（相手に向けてまったく表現しない）	○		
2	拒否の動作をする（背を向けるなど）	○		
3	相手に拒否の動作をする（首を振るなど）	○		
4	言葉で拒否する（いや・やらないなど）	○		

### <注意を促す>

1	なし（注意を促す表現をしない）	○		
2	発声で知らせる	○		
3	動作で知らせる（肩をたたくなど）	○		
4	見せびらかす・物を持ってきて見せる	○		
5	あれ見て！の意味を込めて指さしで示す	○		
6	言語で説明する（あっ飛行機だよ！など）	○		

### <質問に答える>

1	なし（質問に答える表現をしない）	○		
2	目の前のことに対する質問に答える （これなあに？どっちが欲しい？など）	○		
	別の場所・時間経過したことに対する質問に答える （何に乗って来たの？など）	△		
	「なぜ？」など因果関係を持った質問に答える	△		
	質問に経験したことをほぼ順序だてて話す	×		

### <説明を求める>

1	なし（説明を求める表現をしない）	○		
2	指さしや動作や物を持ってきてたずねる（特定の物のみ）	○		
	指さしや動作や物を持ってきてたずねる（特定の物に限らず）	△		
	言葉でたずねる（特定の物のみ）	○		
	言葉でたずねる（特定の物に限らず）	△		

### <日常のコミュニケーション>

1	あいさつの声かけに動作で答える	△		
2	あいさつの声かけに言葉で返す	△		
3	自分からあいさつの言葉を使う	×		
4	言葉で許可を求める	△		
5	ありがとう・ごめんなさいを言う	△		
6	簡単な会話をする	△		
7	「ママ!」「先生!」など呼びかけて、意図や状況を伝える	△		
8	簡単な伝言をする	×		
9	電話で簡単な応答をする	×		

評価の基準 ○ できる △ 不確実 × まったくできない - 取り組んでいない  
 [引用文献：認知発達治療の実践マニュアルー自閉症の別発達課題]

太田ステージ評価(LDT-R)のステージ別に発達課題(コミュニケーション能力に関すること)

ステージ	指導の段階	課題	評価	
I	1	大人からの簡単な身振り、サインの意味を理解し、それに応じる	○	
	2	日常での簡単な言葉かけの意味を理解し、それに応じる	○	
	3	ごく身近な教師(担任、副担任)との関係に慣れる	△	
	4	小集団活動(3~4人)でまわりの大きな動きに気づいて教師に介助されながら行動する		△
		①同室内での小集団活動の場に20分くらいいられる		△
②周囲の大きな動きに気づいて、自分も動く		△		
③椅子に座って待っている		△		
④活動を終わったら席に戻って座る		△		
II	5	指さし、ちょうだいなどの身振り、言葉(単語)を要求手段として有効に活用できる	○	
	6	人の名前に気付く	○	
		①自分の名前が確実にわかる(返事や拳手ができること)	○	
		②家族や先生、友達など、身近な人の呼び名がわかる(写真を提示し、指さして答える)	○	
	7	日常生活での言葉かけの理解と表出ができる	△	
		①いつも同じように繰り返される日常生活の場面の中で、言葉かけだけで行動ができる	○	
		②あいさつ言葉を覚え、あいさつできる(おはよう、いただきます、さようならなど)	△	
	8	慣れた教師(担任、副担任、学年の教師)との関係を深め、簡単なやりとりを楽しむことができる	△	
	9	教師の支援で2人組の子ども同士の簡単な関わりに慣れ、楽しむことができる	×	
	10	小集団活動(4~5人)にあまりはずれないで参加できる	×	
		①小集団活動(4~5人)で個別の言葉かけで行動する	△	
②座って順番を待つ		△		
③教師の一連の見本を目で追うことができる		△		
④合図に合わせて座ったり動いたりできる		△		
11	教師の介助で役割ができる(簡単な当番、係)	△		

評価の基準 ○ できる △ 不確実 × まったくできない - 取り組んでいない

課題に対する指導内容例

ステージ	指導の段階	課題	評価
I	3	ごく身近な教師(担任、副担任)との関係に慣れる。	△

<指導内容例>

【ねらい】 ごく身近な教師(担任、副担任)との関係に慣れ、身近な教師を求めて探すようになるような気持ちを育てる。

【教材例】 バルーン、トランポリン、ボール、パクパク人形

【指導の仕方】 子どもが喜ぶことを教師からたくさん働きかける。そして「もっとやってほしい」という子どもの意欲を引き出し、教師にかかわっていくように促す。その時の要求の仕方が教師の手を引っ張る(クレーン現象)だけでなく、身振りや言葉でも表現できるように促していく。

- |   |             |                        |
|---|-------------|------------------------|
| 1 | スキンシップのある遊び | ① 一本橋こちょこちょなど          |
|   |             | ② バルーンやトランポリン          |
| 2 | その他の遊び      | ① おいかっこ                |
|   |             | ② パクパク人形やボールを使ったやりとり遊び |

[引用文献: 認知発達治療の実践マニュアルー自閉症の別発達課題]

## 8 教材・教具の選定、活用

具体的な指導内容を効果的に指導するためには、教材・教具の選定が重要です。一人一人の障がいの状態、発達の状態、興味・関心、学習課題等、個々の児童生徒に対応するような教材の工夫が必要です。具体例を示した児童の場合は、感情を表した絵カードやスケジュールカード、教師に助けを求める方法を視覚的に示したカード等が考えられます。また、「課題に対する指導内容例（資料①－7ページ）に示した教材例」も参考にすることができます。

発達の段階に応じた教材については、「認知発達治療の実践マニュアルー自閉症の別発達課題」や「発達支援と教材教具ー子どもに学ぶ学習の系統性ー」、「自閉症課題百選」、「見える形でわかりやすくーTEACCHにおける視覚的構造化と自立課題ー」等の書籍を参考にすると、教材・教具の選定や作成がしやすくなると思います。

## 9 評価の仕方

自立活動の指導が適切な評価によって改善される必要があることから、児童生徒の学習状況や結果を適切に評価し、個別の指導計画や具体的な指導の改善に生かすことが大切です。学習の評価は、実際の指導が個々の児童生徒の指導目標に照らしてどのように行われ、どのように変容しているかを明らかにしたり、児童生徒がどのような点でつまずき、それを改善するためにどのような指導をしていけばよいかを明確にするものでもあります。評価のポイントは4つありますが、一例として「認知発達治療の実践マニュアルー自閉症の別発達課題の生活チェックリスト」等で実態を把握しておく、その視点に基づいて定期的に評価でき、指導内容の見直しや改善もできます。

### 生活スキルチェックリスト（集団参加）

＜小集団への参加＞		4月	7月	2月
1	集団活動の雰囲気慣れる	△	○	
2	誘われれば友達の遊びの輪の中に入れる	×	△	
3	体操やリズムなどの場面に一部参加する	○	○	
4	体操やリズムなどの場面に安定して参加する	△	○	
5	教師の介助のもとに着席してられる	○	○	
6	一人でも着席してられる	△	○	
7	周囲の動きを真似て動く	△	○	
8	先生や友達が示す見本（手本）を見て真似る	△	△	
9	名前を呼ばれたら前を出て課題に取り組み、終わったら席に戻る	△	○	
10	集合の合図で集まる	△	△	
11	一列に集まる『縦・横』	△	△	
12	順番や交代を守る	×	△	
1	じゃんけんの意味がわかる	×	×	
＜学校の集団への参加＞				
1	介助のもとに係や当番の役割をする	○	○	
1	介助なしで係や当番の役割をする	×	△	
1	介助のもとに行事に参加する	○	○	
1	介助なしで行事に参加する	×	×	
1	個別の声かけで行動できる	○	○	
1	全体の声かけで行動できる	△	△	
＜ルールを理解して行動する＞				
20	簡単なゲームを理解して参加する	△	△	
21	相撲・かけっこなどの勝敗がわかる	×	△	
22	チームゲームのルールを理解して参加する	×	×	



評価の基準 ○ できる △ 不確実 × まったくできない - 取り組んでいない

※『 』内は該当する目標に丸印をする

〔引用文献：認知発達治療の実践マニュアルー自閉症の別発達課題〕



## 資料②「自立活動内容例一覧表」

自立活動の六つの区分の下に分類・整理されている項目についてまとめています。各項目の下に  で記載しているのは、項目が表している意味です。また、指導内容例の  には、特別支援学校学習指導要領解説自立活動編に記載されている特定の障がいのある児童生徒への指導内容例をまとめています。

知的障がいのある児童生徒は他の障がいを併せ有する場合もあるため、他の障がいの指導内容例も参考までに記載しています。

### 1 健康の保持

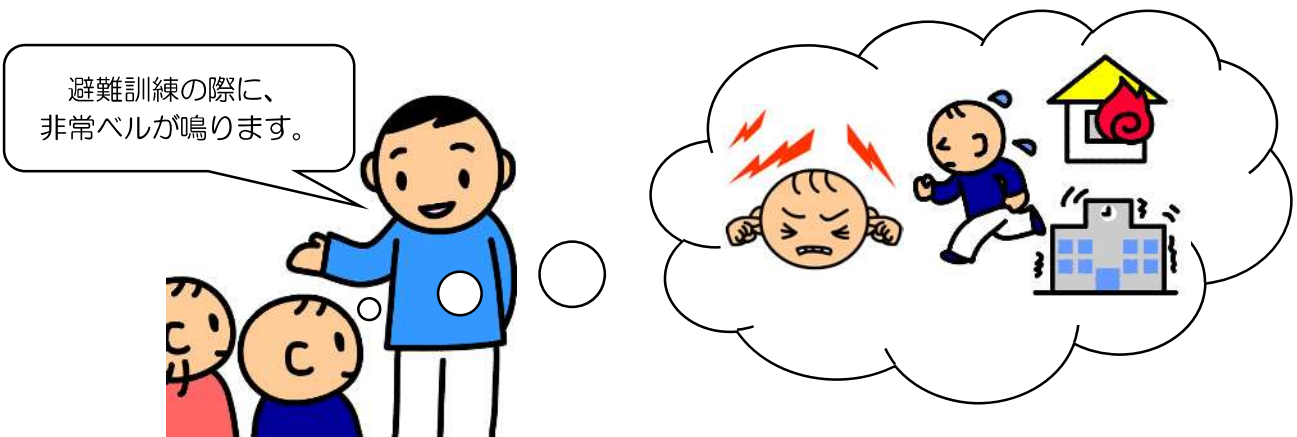
生命を維持し、日常生活を行うために必要な身体の状態の維持・改善を図る観点から内容を示しています。

項目	指導内容例
<p><b>(1) 生活のリズムや生活習慣の形成に関すること</b></p> <p>・体温の調節、覚醒と睡眠など健康状態の維持・改善に必要な生活のリズムを身に付けること</p> <p>・食事や排泄などの生活習慣を形成すること</p> <p>・衣服の調節、室温の調節や換気、感染予防のための清潔の保持など健康な生活環境の形成を図ること</p>	<p>□体温・脈拍・呼吸の調節 □覚醒と睡眠のリズム</p> <p>□食事（量・回数・偏食） □水分の摂取（量・回数）</p> <p>□排尿・排泄の習慣 □衣服の調節（衣服へのこだわり）</p> <p>□室温の調節 □整理・整とんの習慣 □食後の歯磨き</p> <p>□手洗い、うがい</p> <p>・重度重複障がい（睡眠、食事、排泄など基礎的な生活リズムを身に付ける）</p> <p>・視覚障がい（覚醒と睡眠リズムの安定）</p> <p>・自閉症（食物や衣服のこだわりの軽減）</p> <p>・ADHD（整理・整とんなどの習慣）</p>
<p><b>(2) 病気の状態の理解と生活管理に関すること</b></p> <p>・自分の病気の状態を理解し、その改善を図ること</p> <p>・病気の進行の防止に必要な生活様式についての理解を深め、それに基づく生活の自己管理ができるようにすること</p>	<p>□病気の状態の理解</p> <p>□病気の改善や進行防止のための自己管理</p> <p>・二分脊椎（尿路感染の予防）</p> <p>・進行性疾患（体調管理）</p> <p>・精神性の疾患[うつ病等]（ストレスの軽減）</p> <p>□蓋裂（歯磨きの習慣形成）</p> <p>・てんかん（生活リズムの安定、過度の疲労の防止、定時服薬）（興奮抑止、ストレス発散方法）</p>
<p><b>(3) 身体各部の状態の理解と養護に関すること</b></p> <p>病気や事故等による神経、筋、骨、皮膚等の身体各部の状態を理解し、その部位を適切に保護したり、症状の進行を防止したりできるようにすること</p>	<p>□身体各部の状態の理解</p> <p>□部位の保護や症状の進行防止</p> <p>・視覚障がい（学習中の姿勢、危険場面での対処）</p> <p>・聴覚障がい（補聴器の取扱い、耳の保護）</p> <p>・下肢切断（義肢の管理、装着部分の清潔）</p> <p>・床ずれ（援助の依頼の仕方）</p> <p>・筋ジストロフィー（適切な運動方法や運動量、進行予防、情緒の安定、援助の依頼の仕方）</p>
<p><b>(4) 健康状態の維持・改善に関すること</b></p> <p>障がいがあることにより、運動量が少なくなったり、体力が低下したりすることを防ぐために、日常生活における適切な健康の自己管理ができるようにすること</p>	<p>□適切な健康の自己管理</p> <p>・重度重複障がい（皮膚刺激・血行促進・呼吸機能の向上、たんの吸引）</p> <p>・知的障がい・自閉症（肥満防止、体力低下の防止、食欲不振の改善、健康の自己管理）</p> <p>・心臓疾患（学校生活管理指導表の活用、活動状態のコントロール）</p>

## 2 心理的な安定

自分の気持ちや情緒をコントロールして変化する状況に適切に対応するとともに、障がいによる学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲の向上を図る観点から内容を示しています。

項目	指導内容例
<p><b>(1) 情緒の安定に関すること</b></p> <p>情緒の安定を図ることが困難な児童生徒が、安定した情緒の下で生活できるようにすること</p>	<p>□情緒の安定と環境の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 白痴病（不安な気持ちの表現）</li> <li>・ （落ち着く場所の確保、気持ちの切り替え）</li> <li>・ 障がいや失敗経験による自信喪失[ など]（自己肯定感を高める）</li> <li>・ 重度重複障がい（快・不快の表出、快感情の呼び起こし、持続）</li> <li>・ 心身症（情緒の安定、良好な人間関係づくり）</li> </ul>
<p><b>(2) 状況の理解と変化への対応に関すること</b></p> <p>場所や場面の状況を理解して心理的抵抗を軽減したり、変化する状況を理解して適切に対応したりするなど、行動の仕方を身に付けること</p>	<p>□場所や場面、周囲の状況の理解</p> <p>□変化に対応した行動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 視覚障がい（情報収集の手段、目印を活用した行動の仕方、援助の依頼の仕方）</li> <li>・ 選択性かん黙（集団構成や活動内容の工夫、段階的な場面への対応）</li> <li>・ 自閉症（予想される事態や状況の予告、事前の体験）</li> </ul>
<p><b>(3) 障がいによる学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関すること</b></p> <p>自分の障がいの状態を理解したり、受容したりして、積極的に障がいによる学習上又は生活上の困難を改善・克服しようとする意欲の向上を図ること</p>	<p>□困難の改善・克服への意欲</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 筋ジストロフィー（学習や運動において打ち込めることに取り組みながら生きがいを感じる工夫）</li> <li>・ 肢体不自由（自力移動による成就感、運動・動作の自己制御、自己の確立）</li> <li>・ 障がいに起因して心理的な不安定を図ることが難しい児童生徒（仲間づくり、先輩からのアドバイス）</li> <li>・ （得意な面と不得意な面の理解、得意な面の活用、自己肯定感を高める）</li> <li>・ 吃音（気持ちを楽にして話せる方法、好きなことや得意なことを話題にした自発的な会話を促し、達成感・成功感を味わわせる）</li> </ul>



### 3 人間関係の形成

自他の理解を深め、対人関係を円滑にし、集団参加の基盤を培う観点から内容を示しています。

項目	指導内容例
<p><b>(1) 他者とのかかわりの基礎に関すること</b></p> <p>人に対する基本的な信頼感をもち、他者からの働き掛けを受け止め、それに応ずることができるようにすること</p>	<p>□人に対する信頼感</p> <p>□他者からの働きかけ等の外界刺激の受容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 身体接触や身体刺激による快の経験</li> <li>• 身近な教師との安定した人間関係の形成</li> <li>• 自閉症（教師との安定した関係形成、やりとりの方法の定着、言葉に加え具体物や視覚的な情報の活用）</li> <li>• 視覚障がい（聞こえる方向への顔の移動、相手との距離を意識した声の調整などコミュニケーションを図るための基本的な指導、援助の依頼の仕方）</li> </ul>
<p><b>(2) 他者の意図や感情の理解に関すること</b></p> <p>他者の意図や感情を理解し、場に応じた適切な行動をとることができるようにすること</p>	<p>□他者の意図や感情の理解</p> <p>□場面に応じた適切な行動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 自閉症（実際の生活場面を想定した具体的方法の獲得〔ロールプレイ〕）</li> <li>• 視覚障がい（相手の声の抑揚や調子の変化を聞き分けて、意図や感情を理解した上で行動する）</li> <li>• 聴覚障がい（物事の状況の推移や順序の理解）</li> </ul>
<p><b>(3) 自己の理解と行動の調整に関すること</b></p> <p>自分の得意なことや不得意なこと、自分の行動の特徴などを理解し、集団の中で状況に応じた行動ができるようになること</p>	<p>□自己の行動特性の理解</p> <p>□適応行動や対処行動の獲得</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 知的障がい（できる活動に基づく成就感の積み重ね、自己理解）</li> <li>• 肢体不自由（実際の体験を通じた補助的な手段の活用、自分でできること、援助を求めることへの理解）</li> <li>• （行動前の状況の観察や理解、具体的な状況を設定した学習〔ロールプレイ〕）</li> <li>• 障がいのある児童生徒（自己肯定感を高める）</li> <li>• 自閉症（自分の得意なことや不得意なことの理解、他者の意図や感情を考えた対応方法の習得、光や音に対する過敏さの軽減、回避の仕方の習得）</li> </ul>
<p><b>(4) 集団への参加の基礎に関すること</b></p> <p>集団の雰囲気に合わせてたり、集団に参加するための手順やきまりを理解したりして、遊びや集団活動などに積極的に参加できるようになること</p>	<p>□集団活動での手順やきまりの理解</p> <p>□集団活動への積極的な参加</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 視覚障がい（集団に参加するための手順やきまり、情報収集の仕方についての事前学習）</li> <li>• 聴覚障がい（日常生活でのルールや常識等の理解や適切な行動、実際の場面の活用を通じた具体的なやりとりの学習）</li> <li>• （日常的に使われる友達同士の言い回しや分からない時の尋ね方等を少人数の集団の中で事前学習）</li> <li>• （ルールの段階的な理解、ロールプレイによる適切な行動の仕方）</li> </ul>

## 4 環境の把握

感覚を有効に活用し、空間や時間などの概念を手掛かりとして、周囲の状況を把握したり、環境と自己との関係を理解したりして、的確に判断し、行動できるようにする観点から内容を示しています。

項目	指導内容例
<p><b>(1) 保有する感覚の活用に関すること</b></p> <p>保有する視覚、聴覚、触覚などの感覚を十分に活用できるようにすること</p> <p>感覚～身体の内外からの刺激を目、耳、皮膚などの感覚器官を通してとらえる働き 認知～感覚を通して得られる情報を基にして行われる情報処理の過程であり、記憶する、思考する、判断する、決定する、推理する、イメージを形成するなどの心理的活動</p>	<p>□保有する視覚、聴覚、触覚などの感覚の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 視覚障がい（保有する視覚を最大限に活用して学習や学校生活に必要な情報を収集）</li> <li>• 聴覚障がい（補聴器等の使用による保有する聴力の十分な活用、様々な集団補聴システム又は補聴器等の機器の特徴に応じた活用）</li> <li>• 視覚障がいや聴覚障がいを併せ有する肢体不自由や知的障がい（保有する感覚を最大限に活用し、学習や日常生活に必要な情報を取り入れる）</li> <li>• 重度重複障がい（視覚、聴覚、触覚、姿勢の変化や筋、関節の動き等を感じ取る感覚の活用、視覚と聴覚、視覚と手の運動を協調させる）</li> </ul>
<p><b>(2) 感覚や認知の特性への対応に関すること</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 一人一人の感覚や認知の特性を踏まえ、自分に入ってくる情報を適切に処理できるようにすること</li> <li>特に感覚の過敏さや認知の偏りなどの個々の特性に適切に対応できるようにすること</li> </ul>	<p>□感覚や認知の特性を踏まえた情報処理、適切な対応</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 日光の眩しさ強く感じる児童生徒（遮光眼鏡の使用の習慣化）</li> <li>• 自閉症（不快な音や感触の回避、慣れさせる、快刺激と不快な刺激の特定）</li> <li>• 障がいのある児童生徒（視覚からの情報、聴覚からの情報など得意な認知の特性の活用）</li> <li>• 脳性まひ（コンピュータ等の補助機器を活用して文字や図形を書く、自分の得意な学習スタイルを知って活用する）</li> </ul>
<p><b>(3) 感覚の補助及び代行手段の活用に関すること</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 保有する感覚器官を用いて状況を把握しやすくするよう各種の補助機器を活用できるようにする</li> <li>• 他の感覚や機器での代行が的確にできるようにすること</li> </ul>	<p>□各種の補助機器と他の感覚や機器での代行手段の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 視覚障がい（拡大読書器や弱視用レンズ等の視覚補助具の活用、視覚情報を聴覚や触覚で代行する機器の活用）</li> <li>• 聴覚障がい（音声を増幅する補聴器等の活用、代行手段としての視覚の活用〔読話、手話や指文字等〕）</li> <li>• 弱視（各種の弱視レンズの活用）</li> </ul>
<p><b>(4) 感覚を総合的に活用した周囲の状況の把握に関すること</b></p> <p>いろいろな感覚器官やその補助及び代行手段を総合的に活用して、情報を収集したり、環境の状況を把握したりして、的確な判断や行動ができるようにすること</p>	<p>□感覚器官やその補助及び代行手段を総合的に活用した周囲の状況把握と的確な判断における行動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 視覚障がい（白杖や足下からの情報、周囲の音、太陽の位置、におい等の情報を総合的に活用、携帯電話のナビケーション機能等の利用）</li> <li>• 聴覚障がい（視覚や嗅覚等の感覚を総合的に活用）</li> </ul>
<p><b>(5) 認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関すること</b></p> <p>ものの機能や属性、形、色、音が変化する様子、空間・時間等の概念の形成を図ることによって、それを認知や行動の手掛かりとして活用できるようにすること</p>	<p>□認知や行動の手掛かりとなる概念の形成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 視覚障がい（触覚による対象物の形、大きさ、手触り、構造、機能等の観察、教室、建物、市街等の地理的な関係の理解）</li> <li>• 肢体不自由（上下、左右、前後、高低、遠近等の空間に関する概念の形成）</li> <li>• LD（体験的な活動を通した左右の概念を含んだ指示や説明の理解）</li> <li>• 聴覚障がい（視覚的な情報を適切に活用した作業、言葉と行動の対応関係の理解）</li> </ul>

## 5 身体の動き

日常生活や作業に必要な基本動作を習得し、生活の中で適切な身体の動きができるようになる観点から内容を示しています。

項目	指導内容例
<p><b>(1) 姿勢と運動・動作の基本的技能に関すること</b></p> <p>日常生活に必要な動作の基本となる姿勢保持や上肢・下肢の運動・動作の改善及び習得、関節の拘縮や変形の予防、筋力の維持・強化を図ることなどの基本的技能に関すること</p>	<p>□姿勢と運動・動作の基本的技能</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基本動作（姿勢保持・姿勢変換・移動・四肢の粗大運動・四肢の微細運動）</li> <li>・筋ジストロフィー（筋力の維持・強化）</li> <li>・視覚障がい（模型などで確認、繰り返しの学習）</li> <li>・ADHD（姿勢を整えやすい机や椅子の使用、姿勢保持の自己チェック）</li> </ul>
<p><b>(2) 姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用に関すること</b></p> <p>姿勢の保持や各種の運動・動作が困難な場合、様々な補助用具等の補助的手段を活用してこれらができるようにすること</p>	<p>□補助用具の使用法の習得</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・補助用具（座位保持いす・歩行器・車いす・白杖等）</li> <li>・用途・目的に応じた補助用具の選択、補助用具のセッティングと収納</li> <li>・重度重複障がい（補助用具を活用した姿勢の保持、身体を起した姿勢を維持するために視覚や触覚などを積極的に活用できる教材・教具、環境の設定の工夫）</li> </ul>
<p><b>(3) 日常生活に必要な基本動作に関すること</b></p> <p>食事、排泄、衣服の着脱、洗面、入浴などの身辺処理及び書字、描画等の学習のための動作などの基本動作を身に付けることができるようにすること</p>	<p>日常生活に必要な基本動作を身に付けるには、基礎的な動作が身に付いていることが必要である。</p> <p>□基礎的な動作（座位、立位を保持しながらの上肢の動作）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・安定した座位で両腕を体の前に伸ばす</li> <li>・身体の正面で両手を合わせる、指を握る、開く</li> <li>・身体のほとんどの部位に指先が届く</li> <li>・手の動きを目で追う</li> </ul> <p>□身辺処理のための基本動作（食事、排泄、衣服の着脱、洗面、入浴等）</p> <p>□学習のための基本動作（書字、描画等）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・運動・動作が極めて困難な児童生徒（介助を受けやすい姿勢、手足の動かし方）</li> <li>・知的障がい（細かな手指の動作の困難さを補う工夫）</li> </ul>
<p><b>(4) 身体の移動能力に関すること</b></p> <p>自力での身体移動や歩行、歩行器や車いすによる移動など、日常生活に必要な移動能力の向上を図ること</p>	<p>□移動能力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・寝返り、腹這い、四つん這い、伝い歩き、歩行等</li> <li>・視覚障がい（白杖や視覚補助具を使用した歩行技術の習得、視覚補助用具の活用）</li> <li>・心臓疾患（歩行器、車いす、電動車いす等による移動能力の向上）</li> <li>・肢体不自由（車いすの操作、操作し続ける体力、安全に目的地まで移動するための状況判断力、援助の依頼の仕方）</li> </ul>
<p><b>(5) 作業に必要な動作と円滑な遂行に関すること</b></p> <p>作業に必要な基本動作を習得し、その巧緻性や持続性の向上を図るとともに、作業を円滑に遂行する能力を高めること</p>	<p>□姿勢保持と上肢の基本動作の習得</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分一人、または補助的手段を活用した座位保持</li> <li>・机上で上肢を曲げる、伸ばす ・ものを握る、放すなど</li> </ul> <p>□両手の協応、目と手の協応、動作の正確さや速さ、持続性の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・肢体不自由（粗大運動での機敏さや持続性、微細運動での正確さや速さの向上）</li> <li>・ADHD（作業への集中力、持続性の向上）</li> <li>・自閉症（作業における基本動作の習得、巧緻性、敏捷性の向上、目と手の協応、姿勢や作業の持続性、作業のやり方のこだわりの軽減）</li> </ul>

## 6 コミュニケーション

場や相手に応じて、コミュニケーションを円滑に行うことができるようにする観点から内容を示しています。

項目	指導内容例
<p><b>(1) コミュニケーションの基礎的能力に関すること</b></p> <p>児童生徒の障がいの種類や程度、興味・関心等に応じて、表情や身振り、各種の機器などを用いて意思のやりとりが行えるようにするなど、コミュニケーションに必要な基礎的な能力を身に付けること</p>	<p>□障がい特性に応じた意思の伝達手段の確立</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・重度重複障がい（表情や身振り、しぐさなどから可能なコミュニケーション手段の基礎的能力の育成）</li> <li>・聴覚障がい（相手を注視する態度や構え、身振りや声での表現）</li> <li>・自閉症（望ましい方法での意思や要求の伝達経験を積み重ねる）</li> <li>・知的障がい（要求場面でのふさわしい身振りや指さし、発声の獲得、相手の言葉や動きに関心を高めさせる、コミュニケーション機器の活用）</li> </ul>
<p><b>(2) 言語の受容と表出に関すること</b></p> <p>話し言葉や各種の文字・記号等を用いて、相手の意図を受け止めたり、自分の考えを伝えたりするなど、言語を受容し表出することができるようにすること</p>	<p>□言語や文字、記号等を介した意思の受容と表出</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・脳性まひ（発語機能の改善、文字の使用や補助的手段の活用）</li> <li>・聴覚障がい（音声と身振りの活用、手話・指文字、文字等の活用）</li> <li>・構音障がい（音の弁別、自分の発音のフィードバック、構音運動を調整する力の向上）</li> <li>・自閉症（話し手を見る、聞く態度の形成、話し言葉や絵、写真、記号等の視覚的な手掛かりを活用した受容と表出、 活用した表出）</li> </ul>
<p><b>(3) 言語の形成と活用に関すること</b></p> <p>コミュニケーションを通して、事物や現象、自己の行動等に対応した言語の概念の形成を図り、体系的な言語を身に付けることができるようにすること</p>	<p>□言語の形成と活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・言語の受容、語彙や文法体系の習得、言語の概念の形成</li> <li>・重度の障がい（自発的な発声・発語の促進）</li> <li>・聴覚障がい（抽象的な言葉の理解、話し言葉・書き言葉・指文字・手話の活用、文法に即した表現）</li> <li>・視覚障がい（触覚、聴覚、保有する視覚を活用した正しい言葉の意味の理解と活用）</li> <li>・LD（聞いて理解する力、コンピュータを活用した読んで理解する力の形成）</li> <li>・言語発達の遅れのある児童生徒（語彙の習得、上位概念、属性、関連語等の言語概念の形成、良好な人間関係による円滑なコミュニケーション）</li> </ul>
<p><b>(4) コミュニケーション手段の選択と活用に関すること</b></p> <p>話し言葉や各種の文字・記号、機器等のコミュニケーション手段を適切に選択・活用し、コミュニケーションが円滑にできるようにすること</p>	<p>□コミュニケーション手段の選択・活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・筆談、文字板、 、コンピュータ、身振り、手話、点字キーボード、点字ディスプレイ、補聴器等の活用</li> </ul> <p>□コミュニケーションの円滑化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自閉症（身振りや 等の機器の活用）</li> <li>・聴覚障がい（音声、文字、手話、指文字、キュード・スピーチ等の選択・活用）</li> <li>・視覚障がい（コンピュータ操作の技能の習得、点字等活用）</li> </ul>
<p><b>(5) 状況に応じたコミュニケーションに関すること</b></p> <p>場や相手の状況に応じて、主体的なコミュニケーションを展開できるようにすること</p>	<p>□主体的なコミュニケーション方法等の工夫</p> <p>□場や相手の状況に応じた適切なコミュニケーション手段の選択</p> <p>□適切な言葉使いやコンピュータの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・視覚障がい（部屋の広さや相手の状況を把握する方法）</li> <li>・LD（話の内容をまとめながら聞くこと、分からない時に聞き返す方法、相手の表情に注目する態度）</li> <li>・選択性かん黙（情緒の安定、安心できる環境とより良い人間関係づくり、日記や作文を活用した気持ちや意思の交換、筆談の活用、自己肯定感の維持、自己理解）</li> </ul>

資料③「自立活動の時間における指導の学習指導案の様式」

小学部 年 組 自立活動学習指導案

日時：平成 年 月 日 ( ) 校時

場所：小学部 年 組教室

指導者：□□ □□ (T 1)

1 題材名 □□□□□□□□

2 目標

(1) 長期目標

○

○

(2) 短期目標

○

○

3 指導観

○ 題材観

○ 指導観

○ 児童の実態

4 指導計画 (全○○時間)

○ □□□□□□・……………○時間

○ □□□□□□・……………○時間 (本時)

5 本時の学習

(1) 本時の目標

○

(2) 本時の授業における児童の実態

氏名	性別	実態
A	男	

(3) 指導過程

時間	学習内容及び学習活動	学習活動及び指導上の留意点	準備資料
		・児童の学習内容 ・学習内容に関する指導上の留意点、指導の手立て	

(4) 評価

氏名	性別	評価の観点	評価
A	男		

評価の観点 ◎・・・よくできた ○・・・だいたいできた △・・・できなかった

(5) 板書計画

(6) 座席配置

## 資料④「生活単元学習学習指導案の様式」

小学部 年 組 生活単元学習学習指導案

日 時：平成 年 月 日（ ） 校時  
場 所：小学部 年 組教室  
指導者：□□ □□ (T1) □□ □□ (T2)

1 単元名 □□□□□□□□

2 目 標 (単元全体の目標)  
○  
○

3 指導観  
○ 題材観 (単元)  
○ 児童の実態  
○ 指導観

4 指導計画 (全○○時間)  
○ □□□□□□・.....○時間  
○ □□□□□□・.....○時間 (本時)  
○ □□□□□□・.....○時間

5 本時の学習  
(1) 本時の目標  
○  
○

(2) 個人の実態及び目標

氏名	性別	実態	目標
A	男		
B	女		
C	男		

(3) 自立活動の指導における指導目標

氏名	自立活動の指導目標 (短期)	区分・項目
A	①	
	②	
	③	
B	①	
	②	
	③	
C	①	
	②	
	③	

※本単元とかかわりが深い指導目標に下線を記した



(4) 指導過程

※ □内、太字ゴシック体は自立活動の指導目標に関する指導上の留意点

時間	学習内容及び学習活動	個人別学習活動及び指導上の留意点			準備資料
		A	B	C	
		・児童の学習内容 ・生活単元学習の学習内容に関する指導上の留意点、指導の手立て ・ <b>自立活動の指導目標に関する指導上の留意点、指導の手立て</b>			
			・生活単元学習の学習内容に関する指導上の留意点、指導の手立て ・ <b>自立活動の指導目標に関する指導上の留意点、指導の手立て</b>	・生活単元学習の学習内容に関する指導上の留意点、指導の手立て ・ <b>自立活動の指導目標に関する指導上の留意点、指導の手立て</b>	

(5) 評価

氏名	性別	評価の内容	評価
A	男		
B	女		
C	男		

評価の観点 ◎・・・よくできた ○・・・だいたいできた △・・・できなかった

(6) 板書計画

(7) 座席配置

(8) 自立活動の指導目標に対する評価

学習内容及び学習活動	A児	評価	B児	評価	C児	評価
	評価の観点		評価の観点		評価の観点	
	・自立活動の指導目標の留意点や指導の手立てを考慮して、評価の観点を記入		・自立活動の指導目標の留意点や指導の手立てを考慮して、評価の観点を記入		・自立活動の指導目標の留意点や指導の手立てを考慮して、評価の観点を記入	

評価 ○・・・達成できた △・・・概ね達成できた ×・・・達成できなかった  
 ■・・・支援方法の改善が必要 ◆・・・指導内容の改善が必要 /・・・該当の活動場面なし